

日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同
工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会
老朽及び遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理に関する検討小委員会
(第26期・第9回) 議事要旨

1. 日時 令和8年3月30日(月) 13:00~15:00
2. 会場 日本学術会議5-A会議室(1) およびオンライン(Zoom)
3. 出席委員 朝比奈 潔 新井 充 小野 恭子 川原 志郎 岸田 伸幸 関 実
高木 和広 辻 佳子 古崎 新太郎 宮崎 恵子 山内 博 横田 真(50音順)
4. 議事要旨

定刻に小野委員長が議長となって開会を宣し、定足数の充足を確認して議事に入った。

1) 前回議事要旨の確認

小野委員長は前回議事要旨(資料1)の確認を求め、一同異議無く了承した。

2) 今期報告案の査読対応について

小野委員長は、今期報告案(資料2-1)について三役を中心に編集作業を進めており、10月に交付された科学的助言等対応委員会「助言書」に対する回答書(資料2-2)を提出したこと、そして、1月中に交付された分科会査読結果を受けて修正対照表(資料2-3)のとおり修正して2月中に提出したことを説明した。それを受けて、親分科会から本委員会の査読委員へ、3月27日に今期報告案を提出したことが事務局から報告された。そして、その今期報告案の書きぶりについて、本会合開催に先立ち、メールにより古崎、関、山内の各委員から見直しを求める意見表明があったことが確認され、委員長も趣旨に同意した。事務局) 今後、本委員会査読への回答と共に小委員会からの修正案を提出する機会がある。関委員) この案は中国遺棄化学兵器処理状況の情報が不十分。処理実績が古く、図1に漏れた埋設場所等もある。「全容把握を求める」というような文章表現も見直した方がよい。山内委員) この報告は遺棄化学兵器処理事業を成功させるために日本学術会議として出すもので中国を含む世界中の人達を読むことになる。本案が中国現地住民とのコミュニケーションを薦めている点は、中国当局に警戒される懸念がある。内外の関係先に配慮した丁寧な文章に仕上げることを強く求めたい。

横田委員) コミュニケーションの話は日本の老朽化学兵器処理事案が順調だったのは住民の理解が得られた故という国内の知見が中国での事業推進にも役立つという考えを盛り込んだ。日本の好事例を中国向けの教訓とすることを先方に十分配慮した表現で促したい。

朝比奈委員) 国内老朽化学兵器事案は中国の遺棄の状況と異なる点が多く、余り参考にならないかも。また、報告の内容を遺棄化学兵器に限定するのか、世界各地の化学兵器関連

問題をどう扱うかという本報告のスコープも、仕上げの段階でご検討頂ければと思う。

小野委員長) 報告書のスコープはあまり広げず主眼は中国に置きつつ、デュアルユースなど世界的な新課題対応も視野に入れた所要の人材育成などの提案を行う考えである。皆さんの意見を総合して決して上から目線でアドバイスという姿勢ではなく、日本が取り組むべき事項を示し、日本の好事例を一寸紹介する形で文章表現にも留意してまとめたい。親委員会査読コメントの反映と共に原案を三役で作成して皆さんに回覧する形で進めたい。

辻委員) 今回は報告として出すことに落ち着いたが、出すことの意義は何か。

山内委員) ①中国に残存する埋設地問題、②世界唯一のヒ素無毒化科学技術、③ヒ素曝露可能性がある処理事業従事者の長期的健康保障の3点と私は理解している。①は中国国内問題だが、その重大性を我々は理解していることを中国当局にも伝わるように書く。

辻委員) ②はリサイクル問題等へ波及効果が期待でき、③は全世界的な健康問題に資するもので意義は大きい。誰に対し何を伝えるのか、伝わる様を書いてあるかが重要である。

古崎委員) 重複は整理する必要があるが、まとめの文章はあった方が良い。

山内委員) 400字少々 of 要約を提案したので、紙数調整し、まとめとして挿入して欲しい。

小野委員長) それでは今後の作業日程として、4/13(月)迄に本日配布の報告案に各委員が修正要望点を直接書き込み、変更理由を付して提出して頂きたい。それを受けて、ゴールデンウィークを目途に査読指摘と内部修正案を統合した版を作成して行きたい。

3) 安全工学シンポジウム2026 OS について

小野委員長は資料3を示して当委員会による安全工学シンポジウム2026オーガナイズドセッションを説明し、関、川原、山内の3委員に講演を依頼した旨を述べた。委員長は当日出張のためリモート出席となり、会場司会を新井副委員長が務めることとした。また、総合討論の導入部について小野委員長が検討しメモを作成し司会者と共有することとした。そして、予稿システム入力5/15㍻切に間に合うよう関係先に手配することを申し合わせた。

4) その他

委員長は、次回の委員会を査読対応の目途がつく5月末～6月初頃、遅くとも安全工学シンポジウム2026開催前に開催するため、査読対応状況に応じ日程調整したい旨を述べた。

議長は、全ての議事が終了した旨を述べ、閉会を宣した。

以上